

保護者・生徒用

愛ことば

～安倉中愛 友よ～

宝塚市立安倉中学校
校長だより
2024(令和6)年
6月3日(月)
第6号
オケラは水面を走ります。

「結果よりプロセス(過程)」 ～全校集会で伝えたかったこと～

1年生・3年生は転地学習、修学旅行と大きな行事を成功裏に終え、2年生はトライやるウィークの取組も始まっています。そして、今週6日(木)のスポーツフェスティバルにむけての取組が先週から本格的に始まりました。全校練習は明日の予行を含めて2回のみと限られた中での準備期間ですがこれまでのところ、どのクラス・学年・ブロックもいい取組をしているように感じています。

小学校から入学してきてまだ2か月の1年生も安倉中学校生としての自覚をしっかりと持ちつつ、元気を前面に出す姿が板についてきました。2年生は、中堅学年として先輩の姿を見ながらも自らも先輩としての振る舞いを意識しての言動が目立ってきました。そして、3年生は最高学年として学校全体を引っ張るリーダーとしての自覚が背中に見られるほど頼もしさを感じています。

今日から3日目で本番を迎えるスポーツフェスティバルですが、その取組で皆さんに意識してほしいことが「結果よりもプロセス(過程)」という言葉です。この言葉は、私が以前この安倉中で教員として勤めていた十数年前の行事の中でこの安倉中学校全校生で大切にされていた言葉です。

どのクラスやブロックも優勝や勝利を目指して仲間と共に全力で頑張っていくことと思いますが、結果だけにとらわれずにそのプロセスを大切に合わせるからこそが重要であるというものです。優勝や勝利を目指して全力を尽くすこと、仲間と共に一つの目標に向けて協力していくことには大きな意味があり、個人として仲間としての成長の時となります。それでも優勝するのはたった1クラスであり1ブロック。それ以外のクラス・ブロックであったとしてもお互いがお互いの頑張りを認めて称え合える仲間であってほしいと思っています。

これまでの立派な取組が今後さらに加速され、感動の安倉中愛スポーツフェスティバルとなることを願っています。

「ざんねん」こそ大切に ～全校集会で伝えたかったこと～

職員室前のいきもの話で、前回の「愛ことば」ではオケラの話に掲載しました。興味深く見てくれる人もおり、何よりいたずらなどなく大切にされているのが嬉しい限りです。その職員室前で飼育されている仲間にザリガニがいます。突然ですが、「ザリガニのおしっ

こは顔から出ます。」川や池でくらす生き物は体がふやけてしまわないように常に水分を出し続けなければならないそうです。つまり大量のおしっこをするのです。ザリガニは、長い触覚の付け根にある小さな穴からおしっこをするそうです。おしっこを作る腎管が口と脳の間にあるためだそうです。『ざんねんないきもの事典』（高橋書店 安倉中の図書室にもあります。）からのものです。



この本では、「ざんねん」と表現される一面ですが、見方を変えると実は他のいきものと違うからこそ、これまで生き残ってきたとする「なくてはならない必要な個性であって進化の結果である」と前向きに捉えることができます。例えば、わたしたち「ヒト」もネコから見ると「ざんねん」なところばかりで、「ネコのような4本足ではなく、①2本足なので走るが遅くて（ネコは100m7秒台で走る）、②頭が大きすぎてよく転ぶし、③防寒に便利な毛がなくてわざわざ布を巻いて寒さを防がないといけない」となるようです。

しかし、見方を変えると「ヒト」はネコからは「ざんねん」とされる2本足で立つということから①立って遠くの敵を早く見つけられた、さらに②目を発達させ③空いた両手を自由に使い道具を作って使いこなし④知恵を生み出す脳を大きく発達させて⑤脳が出す大量の熱で体を壊さないように毛を薄くする・・・と進化をどんどん進めていきました。つまりネコからしたら「ざんねん」と思えるところがあるからこそ「ヒト」は文明を発達させてきたと言えるのです。

これは、今の私たち一人一人の安倉中生にも言えることで、もしかしたら今の自分では自信のない「ざんねん」と思っているところも「人との違いはこれからの生きていく上で長所にもなるんだよ」というメッセージと受け止められるということです。そして「君はそのまま大丈夫」「違いがあることが大切」というように、強さや速さといったすごいところばかりではなく、どんなものも丁寧に扱うとか、物事をじっくりと考えるなどと、もしかしたら自分では自信がないと思っているところも前向きに捉えるようにと教えてくれるものなのです。さらに、自分の「ざんねん」と同じように、人の「ざんねん」も認められる仲間づくりへのメッセージも感じることができます。

ただし、「じゃあ、そのままでもいいのなら、勉強や部活でのしんどいことや、みんなとのルールもわざわざ守らなくても好きなようにしていいんだ。」と言うのではありません。今の自分にできること（これは一人一人違うはず）に自分なりの頑張りを積み重ねていって、それぞれに「進化」していかないとはいけません。個人としての頑張りを、班やクラス、学年、学校など集団としての頑張りを「進化」につなげていってほしいと思います。

最後にもう一度、「ざんねんこそ大切に。君はそのまま大丈夫！」